

チャイルドケア早わかりガイド

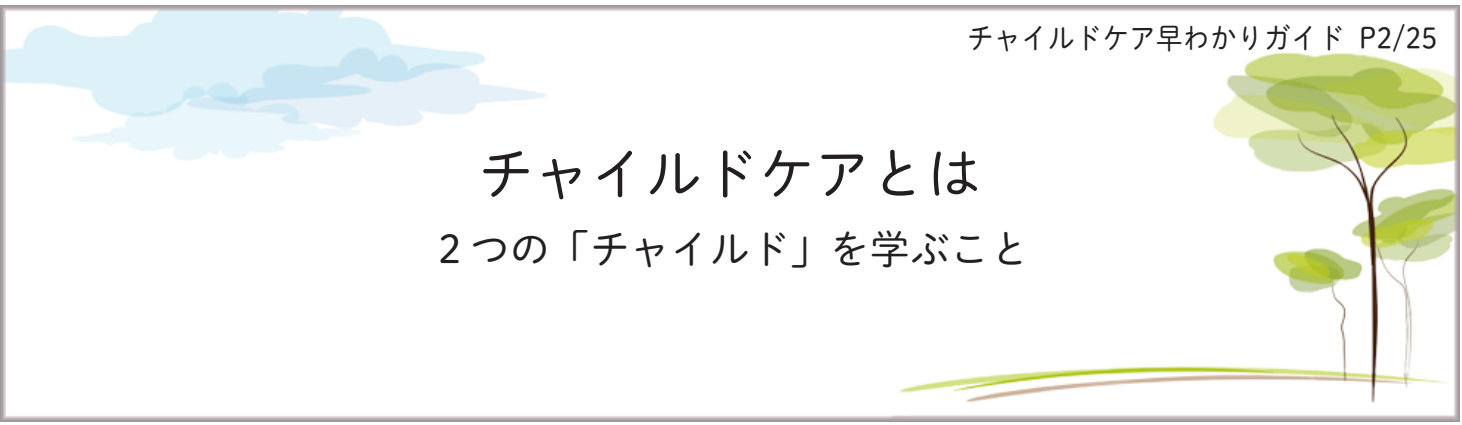
チャイルドケアとは、地球を母とするすべてのいのちを「チャイルド」と総称し、そのチャイルドの調和と幸福を目指すものです

赤ちゃんの誕生をきっかけに、「いのち」の尊さ、美しさ、逞しさなど喜びを感じるとともに、周りに存在する自然、環境などにも意識をむけ、多くの「いのち」の存在を再認識した方も多いことでしょう。

私たちは、社会の目まぐるしい変化と速さに追われ、本来の「生」を意識した生活から遠ざかりました。

そのため、いのちの誕生に喜びをもったこともすっかり忘れ、不安、焦り、迷い、疑い、戸惑いをもちながら、その責任の重圧を抱えながら子育てしている状況があります。そして素晴らしい「いのち」を持った唯一無二である存在の自分さえも否定し、戸惑いながら生きている人も少なくありません。

チャイルドケアは、そんな現代の子育てや生活の問題を「生活」で調べていくことを提案します。チャイルドケアでは、この【生活】を生きることを活性させるという観点から、それを自然療法と家庭教育を取り入れながら、取り組みます。「チャイルド」であるすべてのいのちを「ケア」という生活で、活性させ、循環させ、そのいのちの生きる力と生き方を考えます。そして、個々に自分の「チャイルドケア」というライフスタイルを築いていくものです。

A decorative header illustration featuring a stylized tree with green foliage on the right and light blue clouds on the left, all within a thin purple border.

チャイルドケアとは 2つの「チャイルド」を学ぶこと

『チャイルドケア』とは、小さな子どもを意味する「チャイルド」と、不調を治すという意味合いの「ケア」という言葉を組み合わせた造語です。

チャイルドケアには、二つの大きなテーマがあります。まず、ひとつめの『チャイルドケア』は、未就学時の子どもを対象にした【子育て】をテーマにしています。未就学時は、人として生きていくための心身の基盤を作る大切な時期です。この時期にどのような子育てをしていけばいいのかを自然療法と家庭教育で考えていきます。

ふたつ目の『チャイルドケア』は、私たちは、皆誰かの子どもだということです。つまり大人になっても永遠に「チャイルド」です。さらに動植物もまた同じように「チャイルド」という存在です。つまり、すべての生命は、地球を母に持つ「チャイルド」という位置づけで「いのち」について考えることをテーマにしています。

すべてのチャイルドは唯一のいのちであり、奇跡の存在として捉え、そのすべてのいのちの調和を図ることを「ケア」として考えます。

チャイルドケアで「いのち」を考えるうえで、学術的なことで深めたり、難しい知識や特別な手法で極めるようなことはしません。

日々の生活の中で、経験し、体験し、体も心も動かしながら考えて、答えを出すことにあります。それぞれの状況の中で、それぞれの思いの中で、しなやかでたくましい「生きる力」を見つけていくことです。

チャイルドケアは、そのような思いで2000年にスタートし、それぞれが「いのちのケア」の在り方を見つけています。

マークに秘めた7つの思いと5つの学び方



●7つの葉

チャイルドケアの概念である
7つのコンセプトを表現しています。

●5つの実

チャイルドケアでは5つの「キョウイク」
で学習を深めることを表現しています。

様々なチャイルド（いのち）と
つながり、調和を図っていく
ことを表現しています。

7つのコンセプト

チャイルドケアには、7つのコンセプトがあります。
この概念を外してチャイルドケアにはなりません。

7つのコンセプトとは

- ①子ども（いのち）を取り巻くすべての環境から考える ②自然療法から生きる力を学ぶ ③
育児と育自を楽しむ ④五感を高め感性を育む ⑤言葉のケアを深める ⑥ふれあいとタッチを高
める ⑦「いのち」と「生きる」を考える

これらを軸にして学習を重ねていきます。そして7つのコンセプトで、視野を広げ、柔軟に考え、
人生における様々な出来事や思いを乗り越え、生きる力を活性していきます。

5つのキョウイク

チャイルドケアは、5つの「キョウイク」で取り組みます。

- ①共育 ②響育 ③今日生く ④協育 ⑤教育

これらの「キョウイク」のスタイルでいのちの関わり方を学習していきます。

7つのコンセプトと5つのキョウイク

チャイルドケアの概念

自分の考えをもって、自分で答えを出す

チャイルドケアは、さまざまな環境、文化、地域や状況によって、展開の仕方は変わります。そして、子どもの数だけ、いのちの数だけ、「ケア」の方法も異なってきます。

いのちの個性や状況に合わせたライフスタイルを築いていくことが必要です。そのために、共通認識、共通理解をしていくための7つのコンセプトと5つのキョウイクをチャイルドケアの概念としています。

学習のカリキュラムに入っていなくても、7つのコンセプトと5つのキョウイクで考えていくことでチャイルドケアのスピリッツとエッセンスから自分らしい「答え」はみつかります。

チャイルドケアの7つのコンセプト

7つのフィルターを通して、「ケア」を学ぶ

①子ども（いのち）を取り巻くすべての環境から考える

視野を広く持ち、つながり、関わり、影響などを考えながら、バランス、調和を図ることを考えていきます。

②自然療法から生きる力を学ぶ

全てのいのちは「自然の一部」とし、自然と呼応しながら、本来持っている生きる力を高め、心身を調べていくことを目指します。

③育児と育自を楽しむ

経験を学び、喜びとしながら個々のいのちの成長に興味をもって取り組みます。

④五感を高め感性を育む

人に与えられた「五感」の感覚を大切に、「生きる力」を育みます。

⑤言葉のケアを深める

「言葉」は人間に与えられた素晴らしいコミュニケーションツール。その影響力を見直し、より豊かなものに深め、「ケア」としてしていきます。

⑥ふれあいとタッチを高める

実際に手で触れることだけではない広義的な「ふれあい」と「タッチ」を提案していきます。

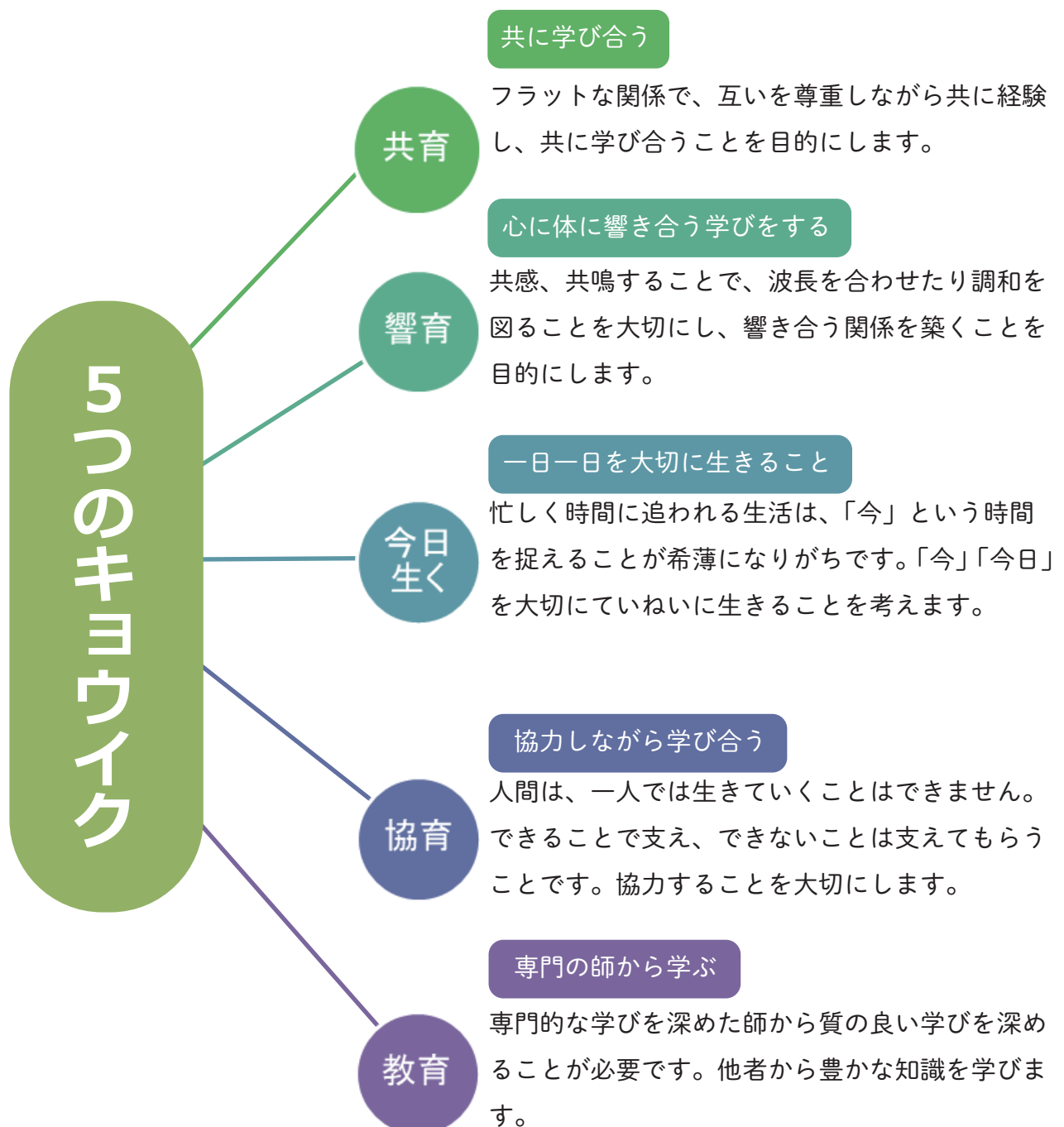
⑦「いのち」と「生きる」を考える

唯一無二である「いのち」。そのいのちの誕生と死までの「生きる」を大切に、そして力強く、ていねいに向き合い考えていきます。

チャイルドケアの5つのキョウイク

5つのキョウイク

チャイルドケアでは、ホーム（家庭）のケアとしての充実を図るために、5つのことを「キョウイク」として挙げています。



いのちのケアを考える

チャイルドケアの背景

いのちを学び、調えること

チャイルドケアは、幼い子どものケアとして最初に取り組まれる方が多いことでしょう。人間の赤ちゃんは、人の手を介さなくては生きていくことができません。誰もがそのようにして成長しているにも関わらず、忘れてしまいます。そして、赤ちゃんの誕生のときに改めて私たちは「いのち」と「育み方」を学び直す機会を与えられています。

子どもは、自分の子どもであったとしても、自分とは別の人格を持つ存在です。子を持ったことで「親」にはなりますが、「親」として何をすべきか、何を心得るべきかなどは学んでいないので、戸惑うことが多くあります。

昔は大家族で、地域とも密接な関係にあったので、人間関係や生きるための知恵、そしていのちの成長と育みから看取りまでを、生活を通して自然に学んでいました。

しかし、都市化が進み、個別化社会になり少子化、核家族が増えたことで、人を介する生活が減ったために、無意識に生活から学んでいたことが失われているのです。その代わり、あふれる情報が入手できるようになりましたが、体験に基づいたものではないので混乱している状況があります。

チャイルドケアでは「いのち」を考えるうえで、学術的なことで深めたり、難しい知識や特別な手法で極めるようなことはしません。

日々の生活の中で、経験し、体験し、体も心も動かしながら考えて、答えを出すことにあります。それぞれの状況の中で、それぞれの思いの中で、しなやかでたくましい「生きる力」を見つけていくことを大切にしています。

いのちの3つのステージ

育むケア / 見守るケア / 看取るケア

いのちの流れに沿ったホームケア

家庭では生きていくためにさまざまないのちとの関わりがあります。いのちの「誕生」から「死」までを一つの流れにしていますがその流れを大きく3つに分けました。

①育むケア

個のいのちの生命に向き合いその生命力を高め、活性させていくケアを考えます。

②見守るケア

個のいのちが自ら持っている力と可能性を信じ、その方向性と成長を見守りながら生きる力をしっかり根付かせていくケアを考えます。

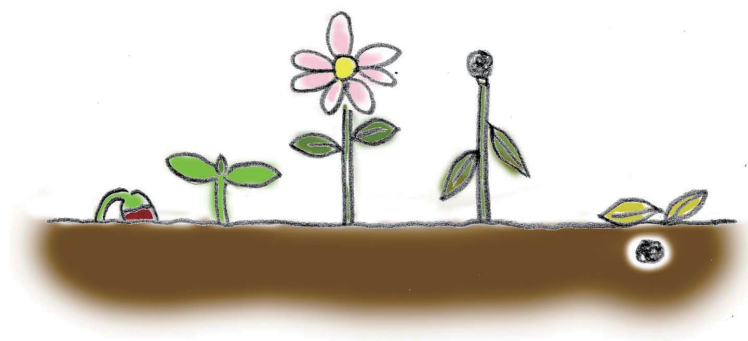
③看取るケア

「誕生」とともにあるのが「死」です。「死」をしっかりとらえていくことで、よりよい生き方、いのちの可能性となるためのケアを考えます。

3つのいのちの流れ

チャイルドケアは、いのちの成長とともに「人生」考えることも大きなテーマとしています。そしてチャイルドケアは、「親」が「子」をみる形だけではなく、「子」が「親」をみる形もチャイルドケアとします。

家庭の中で、家族の中で、「いのち」が循環し、受け継がれていく関係性からも考えていきます。



自然療法と家庭教育を取り入れた ホームケアの提案

チャイルドケアの自然療法の捉え方

ハーブ、アロマセラピー、東洋医学など家庭で行えることを前提にした知識や知恵を生活に取り入れ、自然治癒力や免疫力を高めていくホームケアの充実を図ります。また、人間も自然の一部ととらえ、自然から学ぶことを大切にします。そして、母なる地球のケアとして、自然環境などにも関心をもち、さまざまな問題改善について考え、取り組んでいきます。

チャイルドケアの家庭教育の捉え方

家庭教育は、子どもの健やかに生きていくために家庭の中で基本的な生活習慣や、倫理観、自制心、自立心など育てていくもので、教育の「原点」です。健康な心と身体を作り、社会とつながっていくための社会的スキルを高めることでもあります。しかし、最近は、「家庭崩壊」「機能不全家族」などと言われるようになりました。いのちを育む重要な環境である「家庭」を見直し、「家庭力」を高めるための提案をしていきます。家庭力を高めることで、個と集合の関係性やつながりは変わり、やがて大きな流れとなって社会に影響を与えるものになります。

チャイルドケアでは、いのちを育む重要な環境である「家庭」を見直し、「家庭力」を高めることは、その家族を形成する「家族」の関係性を見直すことにもつながります。それぞれの役割を見直し、人と人の関わり、支え合い、助け合う本来の人間関係の基盤となるコミュニケーション力を形成します。さらに、家庭と社会とつながりを円滑にし、柔軟にしていくことで「地域」と「社会」と連動し、よりよい社会づくりにつながっていくと考えます。家庭教育は個のいのちといのちの可能性を豊かにしていくために必要な教育であると考えます。

チャイルドケアで捉える自然療法

生命力を高める



チャイルドケアの自然療法の捉え方

自然療法の手法や順番などのノウハウや対症療法として自然療法を利用することを目的としてはいません。

大切なのは、自然から学び、自然とともにあることを認識し、自然と呼応できる力をつけることです。私たちが持っている恒常性を維持する力をつけたり、自然治癒力、免疫力を高めることです。

自然療法は、知識とともに、経験を重ねて得ていく「知恵」が必要になります。そして、その知恵を効率よく使うための「選択」「タイミング」や「使い方」が必要になります。そして、さらに「工夫」することで、より高い知恵をもつことができるようになります。まさに生きる力をつけるための柔軟な思考に繋がっていくと考えます。

依存的なケアの在り方から、補うケア、高めるケアとしてケアを発展させていくことを目指します。

チャイルドケアで考える家庭教育

家庭力を高める

いのちを育む最初の間「家庭」の力を高める

一人では生きていくことはできません。様々ないのちと関わり、良い関係を作り循環させて調えることが大切です。また、家族や家庭という定義は、もっと自由で柔軟なものだとチャイルドケアでは捉えています。

血縁関係だけが家族ではありません。様々な形があります。様々な家族の形、家庭の形があります。大切なのは、いのちを孤立させないこと、つなげていくこと、そして循環させていくことです。

また、チャイルドケアでは、【家庭】を「いのちが健全に育まれる場」として、「自分」のありのままを受け入れ、「自分」の心の居場所となり、包み込んでくれるような温かい場であり、いのちが愛される場をとって捉えていきます。

いのちの生きる力と幸福を考える

いのちは、はかなく、たくましく、強く 美しく、幸福を求めている

チャイルドケアは、不調を調べ、いのちが本来持っている力を育み、そしていのちが求めている幸福を追求するものです。

様々な可能性を持っています。様々なスタイルがあります。個々のいのちの意味を理解していくことです。

そのために生きる力をつけていくこと。様々なことに対処できる力をつけることです。柔軟な思考と豊かな好奇心、そして勇気ある行動がいのちの方向性を導いてくれると思います。

チャイルドケアでは、個々の環境や状況に合わせて、できることをていねいに考え、目的意識をもって行動するために様々な知識と情報とコミュニティを提案していきたいと考えています。

「健康」の定義は様々です。チャイルドケアでは、心身の健康とともに、このいのちの生きる力と幸福を考えていくこともまた大切な「健康」ととらえています。

7つのコンセプト ライフスタイルの軸を作る

自分で考え、自分で取り組み、自分で答えを出す

チャイルドケアの学習は、正しいとされる「答え」はひとつではありません。「答え」合わせをするような学習スタイルではありません。だから「覚える」ことが中心ではなく、「考えてみること」「行動してみること」を経験として重ねながら、自分の答えを出していきます。

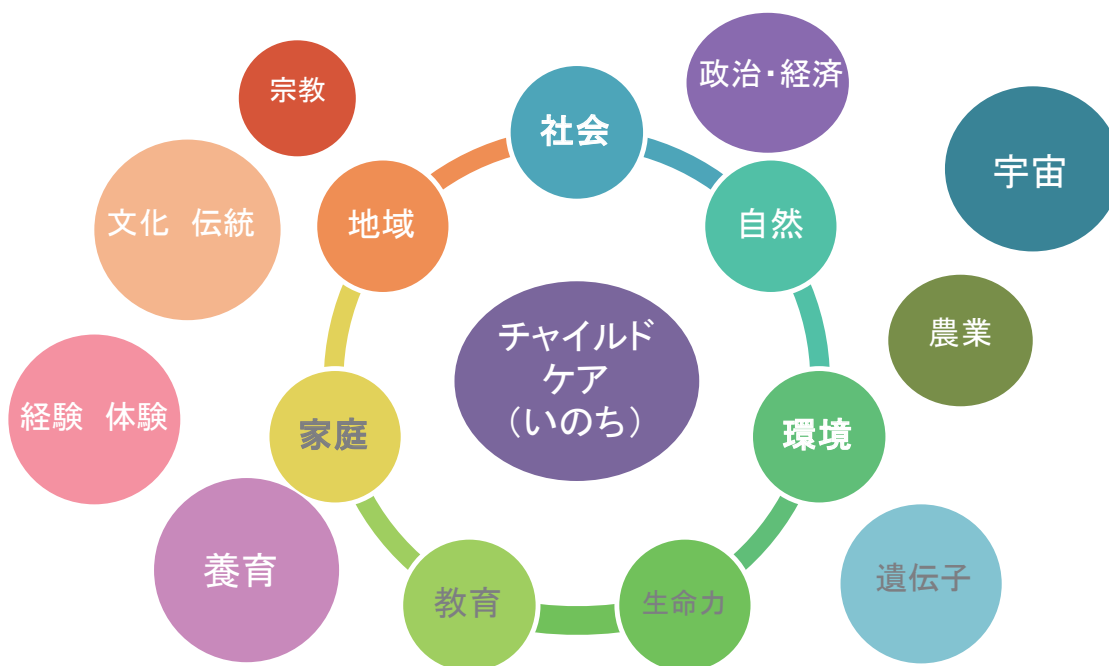
情報社会の中で情報を取り入れることで「知る」ことができると「わかっている」と勘違いしてしまうことがあります。経験がなければ、実際に起こったときにできなくなり戸惑うのです。そして不安になり、自信を失うことが多くなってきました。「知っている」から経験して、「わかった」となり、何度も同じことを繰り返して行うことで「できる」という流れになります。この経験と継続をして、「分かる」から「できる」になったとき「自信」となります。

「自信」は生きていくうえで重要なことです。チャイルドケアの学習は、この「自信」をつけるための学びです。そして、チャイルドケアの概念である7つのコンセプトは、気づきのヒントになります。気づきは、不調になる前の調整です。気づいたときに、行動や意識を変えることでマニュアルにはない、自分の答えが見つかります。

チャイルドケアの答えは正誤をつけつものではありません。良い塩梅を見つけることです。

①子どもを取り巻くすべての環境から考える

生活の背景にあることに関心をもつ



私たちは、様々な影響を受けて存在し、いのちを費やしています。目先のことにとらわれずその関りを見つけて関心もち、バランスを図ることが必要です。チャイルドケアで考える健康は、決して「医療」という分野だけで考えるものではありません。科学的に、哲学的に、文化的に、文学的に、芸術的に考えていくこともあります。

チャイルドケアで考える健康は、いのちの円滑な流れの中で豊かに自由に広がりをもっていることです。「病気」ではないことが健康という位置づけではなく、もっと包括的に捉えていきます。愛の反対語は「無関心」

そのために「生活」に意識を向け、様々な分野に関心を持つことが大切です。最近は、情報や知識の取り方に偏りがみられます。自分が興味のあることには積極的になりますが、それ以外のことになると、関心を示さないことも多くなりました。自分と違う意見や少数派の考えには排他的に捉えていると、公正な判断ができなくなります。さらに情報や知識の真意を知ることにも努め、安易な情報に惑わされずに自分の考えを持つことです。いのちは多くの可能性を秘めています。閉ざされることなく、開かれる流れを見つけていき、生き生きと成長できる状況を考えていきましょう。ケアは、関心を持つことから始まります。

②自然療法から生きる力を学ぶ

チャイルドケアの自然療法では、極端に言えば何もしない、何も「悪い」ものとして捉えません。あるがままを知ることからスタートすると考えます。

そして、あるがままの状況を理解し、その状況に見合ったバランスを図り、よりよく調べていくことです。そうすることで、変化に柔軟に対応していきます。そのために「自然」を知り、方法として様々な自然療法を利用します。

また、私たちも自然の一部として、自分たちの在り方を考えていきます。自然には木々や植物のように見える自然と、空気や風のような見えない自然があります。そうした見えるものと見えないものへの意識を持つこともチャイルドケアの自然療法の捉え方です。



「治す」ことが目的ではなく「治る力」をつけること

現代医学は、現れた症状に対して処置する対症療法、治すことを中心としています。それに対して、自然療法とは、人が本来的に持っている「自然治癒力」を高める様々な療法を総称して、「自然療法」としています。

また、自然と人との関わり方をよりよい方向へと導いてくれる各アプローチも自然療法として捉えます。チャイルドケアでは、ハーブ、アロマセラピー、東洋医学のほか家庭に取り入れやすい方法をご提案していきます。

自然界の穏やかな刺激を利用する

自然療法は、自然界に存在する純粋な刺激や、安らぎを相乗的に用いながら、生体が潜在的に持っている自己治癒力と自己調整機能に働きかけ、生体を活性させるものです。そして、人が本来持っている本能的な力や、内なる力を高めたり、強めたり、広げたり、深めたりすることができるものです。

ただし、現代医学と違い個々に見合うものが異なる場合が多くあります。刺激、使い方、使うもの、使う頻度などは見合ったものを見つけていくことです。チャイルドケアの学習では、特に植物との関りについて深めていこうと思います。

③育児と育自を楽しむ

子どもから教えてもらう「親」の学び方



子どもがいて、形状「親」になれても、最初から「親」としての役割が上手にできるようになるわけではありません。

昔から「子を持てば、親になれるが、親でいられるためには努力が必要」と言われています。子を持てば、大きな責任を抱え、そのため不安や焦りを抱えて子育ての悩みを持つ人は多くいます。

でも子の数だけ子育ての形はあります。たくさんの子育てを育児書を読むより、子どもを知ることで、子どもが何を求めているのかわかる親であることです。

子育てに規格はありません

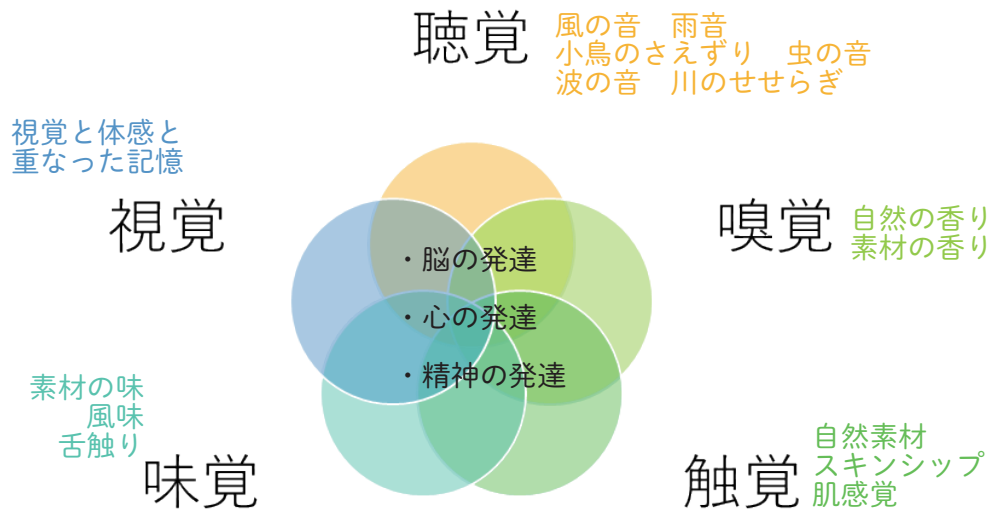
子どもは、唯一無二の存在で、子どもの数だけ子育ての数があると考えるほうが自然です。昔は大家族で地域とのつながりももっと密接であったので、

子育てをしている姿を見たり、聞いたり、あるいは子守を経験することもありました。だから育児書などに頼らずともすでに疑似体験していたので、子育ての感覚を持っていました。しかし、少子化で核家族化している現代では、

そのような経験をするのが減ったために、本来自然な形で体験とともに命をつないでいた子育てが、知識や方法をあてはめ、ハウツー方式の子育てになったことで、当然合わない不自然な子育てになってきました。

また、子育てが多様化し、知育的な子育て情報も増えたことで、焦りや不安をもち戸惑いを持ちながら、自分の子育ての正誤ばかりを気にしてしまう親も増えました。何よりも、本来「子」が主体としていた子育てが、「親」が主体となった子育てに変わったことです。チャイルドケアでは、子どもを主体にした子育てを見直すことを提案します。難しいことではなく、その子を知ることです。すでにある規格にあてはめることはありません。違いがあってもいいのです。違いがあることが本来のいのちです。

④五感を高め感性を育む



五感を活性させて、様々な感覚を養う

五感を育む 五感（視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚）は、個々の感覚だけではなく、それぞれの感覚が連動して、様々な感覚を作り出し、私たちの生命維持に大きな影響を与えています。五感を育むことは、特別なことではなく、自然の中で養われることが多々あります。自然界が作り出したフォルム、音、臭いや匂い、肌当たりなど、自然の中にある穏やかな刺激を受けとめることで私たちの生命の中にある本来の感覚を研ぎ澄ませていくのです。決して難しい知識や技術で高めることではありません。また、五感を養いながら、自然の美しさや素晴らしさを本能的に感じ、感動できる情緒を育むことです。

子どもは純粋で、まっすぐな感性を持っていますから、経験を重ねることで美しいもの、素晴らしいもの、善いものから学ぶことができるようになります。感性を育むことで一番大切なことは、知育玩具や知識で教えることではなく、自然の中で体験しながら、頭も心も体も使った記憶がとても大切になります。

⑤言葉のケアを深める

言葉は、人に与えられた最大のコミュニケーションツール、そして、エネルギー（パワー）です。

チャイルドケアでは「言葉」の持つ様々な使い方、有効性を理解し「ケア」として役立てます。



「言葉」は、生きていくための【栄養】です

インターネットやスマホの利用が一般化し、SNSなどを活用したコミュニケーションが増えました。一見すると以前よりもコミュニケーションが充実しているように思いますが、決してそうではありません。本来はコミュニケーションは他者がいる存在をきちんと認識してやり取りしていました。そこには配慮や思いやりや尊重がありました。今は、利便性や楽しさを中心にしたものになり、自己中心的に一方的に相手に伝えることが増えました。また、言葉も短縮化されて、絵文字やスタンプ、写真などに変わり、言葉で伝えることが減っています。会話できる距離にいても、顔を合わせずにスマホを介して会話をするということもあります。これは本来の会話ではありません。

言葉を使わないことが増えたので、肝心の会話ができない、必要な言葉が見つからない、どう表現していいのかわからないという問題も出ています。つまり、コミュニケーションに自信がないという人が増えているのです。チャイルドケアでは、「言葉」の重要性を深め、そしてそれが日々のケアにつながることを提案します。言葉が変わることで、自分が変わり、生活が変わり、子育ても人間関係も変わります。生き方も変わります。それほど言葉は大切なものです。特に日本語の母音には、癒す力があるとされています。言葉の力を知ること、道具の要らない「ケア」が可能になるということです。専門的な知識がなくても言葉を上手に使うことは、ときにカウンセリングやコーチングのような働きをするのです。

⑥ふれあいとタッチを高める

「心」と「心」を通わせて伝えていくこと



チャイルドケアでは、ふれあいとタッチの重要性は、まず順番やテクニックなどの技術ではなく、「心」を通わせ、安心と自信（愛着）を育むことを伝えています。

また、直接的に手で触れる行為を「タッチ」とするのではなく、広義的な意味でとらえます。

手で肌を刺激するタッチケアだけではなく手遊びや手作業、手作りなどもタッチケアとして考えます。また肌にふれるモノ・コトすべてを意識していきます。

チャイルドケアのふれあいとタッチ

ふれあいは、良い相互関係があつてはじめて成り立ちます。それは人間けではありません。動植物とふれあう、自然とふれあう、歴史にふれあうなどと「ふれあう」という言葉を使いますが、他者に関心をもって、好意的に関わるということを表しています。

同じように「タッチ」も一方的なものではなく、そうした双方にとってよいものであることです。そして、身体だけではなく、心や環境、精神までに及ぶものと考えます。

年齢、老若男女という人間だけを対象にするものではなく、動物や、植物などを通して、影響を及ぼすことができます。またその方法は自由であり、特別なものではありません。

様々なことが細分化され、個別化され便利になった部分もありますが、他者との関わり方に戸惑いを持つことも増えました。本来は他者と関わりを持つことは、いのちが育つうえで重要なことです。孤独、孤立していくことで多くの問題が生まれています。チャイルドケアのふれあいとタッチは、こうした問題を解決するために取り組んでいきます。

⑦「いのち」と「生きる」を考える

永遠の課題と取り組み

チャイルドケアの中で最も難しいテーマであり、最も取り組むべき課題が「いのち」と「生きる」を考えます。

「いのち」と「生きる」ことを挙げれば当然、「死」という表裏一体になっている部分も出てきます。

唯一無二の「生」の尊さと、奇跡の「今」をもっと有意義に捉え、生活をしていくことが「チャイルドケア」です。

いのちの「誕生」を考えることからスタート

チャイルドケアでは、いのちの誕生を改めて考えるところからスタートします。そしてそのいのちが全うすることを看取るところまで「家庭」を軸にして考えていくことです。難しい知識やノウハウではなく、「考えていくこと」をまず大切にしたいと思います。

生活の中で様々ないのちと関係しながら存在しています。いのちは生かされていることに気づくことで、視野が広がり、多くのいのちの存在に気づき、感謝し、大切に思う思いが生まれ、他者だけではなく、自分を愛する気持ちを高めることになります。

いのちを生かすことが「生きること」です。そして生きることとは、深い愛を感じながら、与えられたいのちと向き合い、生きるための行動を起こすことです。「誕生」の大切さと同時に「死」を理解することで、生命を慈しむことができるようになります。恐れよりも、豊かさを感じていくことです。

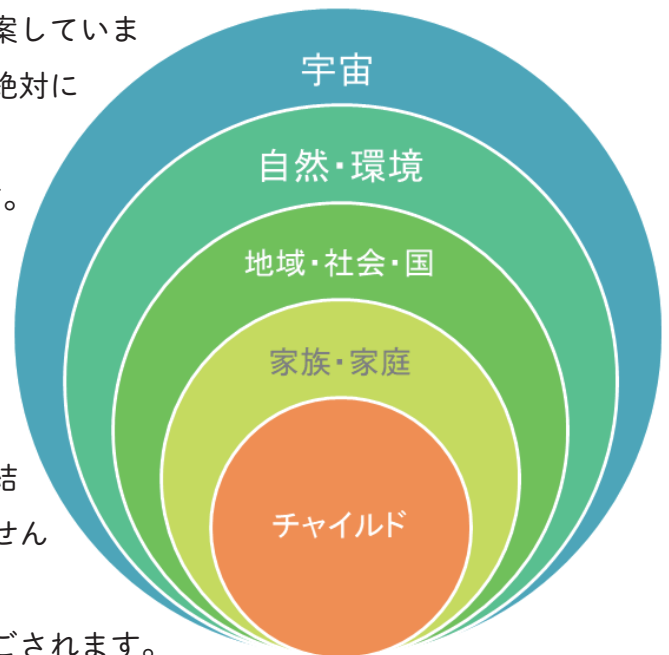
すべてはひとつのつながり

誰もができることを行動にすることが「力」を作ります

チャイルドケアは、家庭でできることを基本に提案しています。絶対に必要な道具、モノもありません。また、絶対に守らなくてはならない手法や順番などありません。ただし、「愛」と「勇気」をもって行動に移すことです。面倒くさいと思ったり、知識や手法を押し付けたり、正義を掲げることもケアとはいえません。

以前は、行動するために情報は必要でした。しかし現代は情報が多すぎることで、情報に戸惑い行動できなくなっていることもあります。行動せずとも結果を知ることができるようになったからかもしれませんが、それはあくまでも一つの情報にすぎません。

また、そういう情報は「経過」や「過程」は見過ごされます。実際に行動する場合は、結果よりもそのときの「経過」や「過程」に大きな学びがあります。加減であったり、流れや、やりやすさなど自分なりのやり方ができるからです。失敗を恐れずに行動することで、例え思うような結果でなくても、必ず学びは得られます。それは「失敗」ではありません。



できることをていねいに

チャイルドケアでは様々な「ケア」を提案をしていきます。全部行うことではなく、そこから自分の興味のあること、できることを見つけてほしいからです。どれも生活を豊かにしてくれるエッセンスです。正しさよりも心地よく気持ちが豊かになる方法として利用してください。

そして、できることをできる範囲でていねいに行うことです。難しい応用を無理して行うことよりも基本を重ねることをおすすめしています。基本を何度も経験し、習慣にし、生活の中で無意識にこなせるようになることが「ケア」になります。

人と地球のケア＝ホームケア

全てとひとつのつながり

チャイルドケアは、マニュアルのようなノウハウはありません。しかし、いのちのケアを考えていくうえで、ケアの捉え方や、思考、行動においては、共有する「思い」があります。それが以下のこととして挙げておきます。

- ・ 人として最初の教育の場が「家庭」である
- ・ 様々な不調を「ホーム＝家庭・地球」で考える・7つのコンセプトを軸にして考える
- ・ 5つのキョウイクで「生きる力」をつける
- ・ いのちの流れにそった3つのステージを意識する
- ・ 全体と個のバランスで柔軟に考える
- ・ 視野を広げ、いのちの持っている可能性を考える
- ・ 個（いのち）と家庭と社会の関係性とつながりと循環を考える
- ・ 共に学び、共に育ち、共に支え合う「共育のケア」を目指す

地球で起こっていることは、私たちの人間のいのちに関わるところで心身にも同じように起こっているということ、そしてそれは、人間に現れている様々な痛みや問題は、地球にも起こっているということ。つまり人間の心身の健康というピンポイントだけで考えるのではなく、地球を知り、そして調べていくことで様々な問題が改善され、自然の一部である私たちに良い影響となり、変わっていくということです。

知覚動考（ともかく動こう！）

知覚動考

学習するうえで、【知】ること、【覚】えることは基本です。しかし最近、知って覚えてだけで満足してしまい、なかなか行動に移せないこともあります。知って、覚えて、行動せずに考えてばかりでは何も身に付きません。もちろん考えることは悪いことではありませんが、行動に移して経験してみることです。つまり行【動】することです。そして、行動した後に振り返り、【考】えることです。学習の順番が【知覚動考】です。「ちかくどうこう」とは読まずに「ともかく動こう」と読みます。これがチャイルドケアのスローガンです。まずはやってみること。その一歩の勇気が大きな自信に変わります。経験は知識だけではなく、心も体も豊かにして、人間として成長させてくれるものです。

小さな力をつなげて、豊かな力に

一人の小さな力では何もできないと思っていても、小さな力同士がつながって、大きくなって循環させていくことで、大きな波を作り、動きが変わります。豊かな力は、不可能さえも可能に変えていくことができるのです。チャイルドケアは、共に学び、共に考え、共に行動し、共に喜び、共に成長していくために、様々な観点から問題に取り組みながら、より豊かな「ホームケア」の在り方を考えていきます。

「チャイルドケアインストラクター web 講座」

カリキュラム 一覧

■カリキュラム【A】 全3回

7つのコンセプトと家庭教育

LESSON 1	チャイルドケアのきほん①
LESSON 2	チャイルドケアのきほん②
LESSON 3	チャイルドケアの東洋医学

■カリキュラム【B】 全7回

Webスクーリング

LESSON 1	チャイルドケアのスキンケア
LESSON 2	チャイルドケアのフットケア
LESSON 3	チャイルドケアのハーブケア
LESSON 4	チャイルドケアのアロマケア
LESSON 5	チャイルドケアのライフケア
LESSON 6	チャイルドケアのとタッチケア
LESSON 7	チャイルドケアの言葉と感性のケア

チャイルドケアの学習後の活用

家庭、子育てに役立てる

- ・ 自然素材の効果を見直し、生活に取り入れることができるようになる
- ・ 自然治癒力を見直し、健康観の認識に変化がでるようになる
- ・ 子育てや生活を考えて工夫してできるようになることで、自信がもてるようになる
- ・ コミュニケーションが円滑になり、人間関係の良い変化が現れる
- ・ 視野を広く持つことで、可能性を持った行動ができるようになる

地域活動や講師活動などで役立てる

- ・ 地域の子育てサークルや生涯学習などで指導することで、家庭の支援ができる
- ・ 産婦人科などでベビマ指導、子育てアドバイスとして寄り添うことができる
- ・ サロンや、教室などで指導しチャイルドケア関連の資格などが出せるようになる
- ・ 応用しながら、介護や幼児教育などに活かすことができる
- ・ その他

チャイルドケア学習の広がり

チャイルドケアの7つのコンセプトを理解することで、様々な学習やセラピーにも取り入れて活用することができます。子育てにおいても未就学だけではなく、小学生や思春期の子どものケアにも応用して利用することができます。

また、ペットや動植物のケアをするうえでもヒントになることがたくさんあります。

2000年からスタートしたこの学習は、すでに多くの方が学び、あるいは学び続けている方がいることでもこの学習が終わることなく、時代に合わせて柔軟に変化しながら対応しているからです。

いのちを育むうえでの普遍的な想いを大切にしながら、目まぐるしく変化する時代にうろたえることなく、力強く生きていくことが問われています。

そのために、学習者だけではなく、学習した皆さんとネットワークを作りながらさらなる可能性を築いていきたいと思います。

チャイルドケアは、時代に合わせて成長していく学習スタイルです。